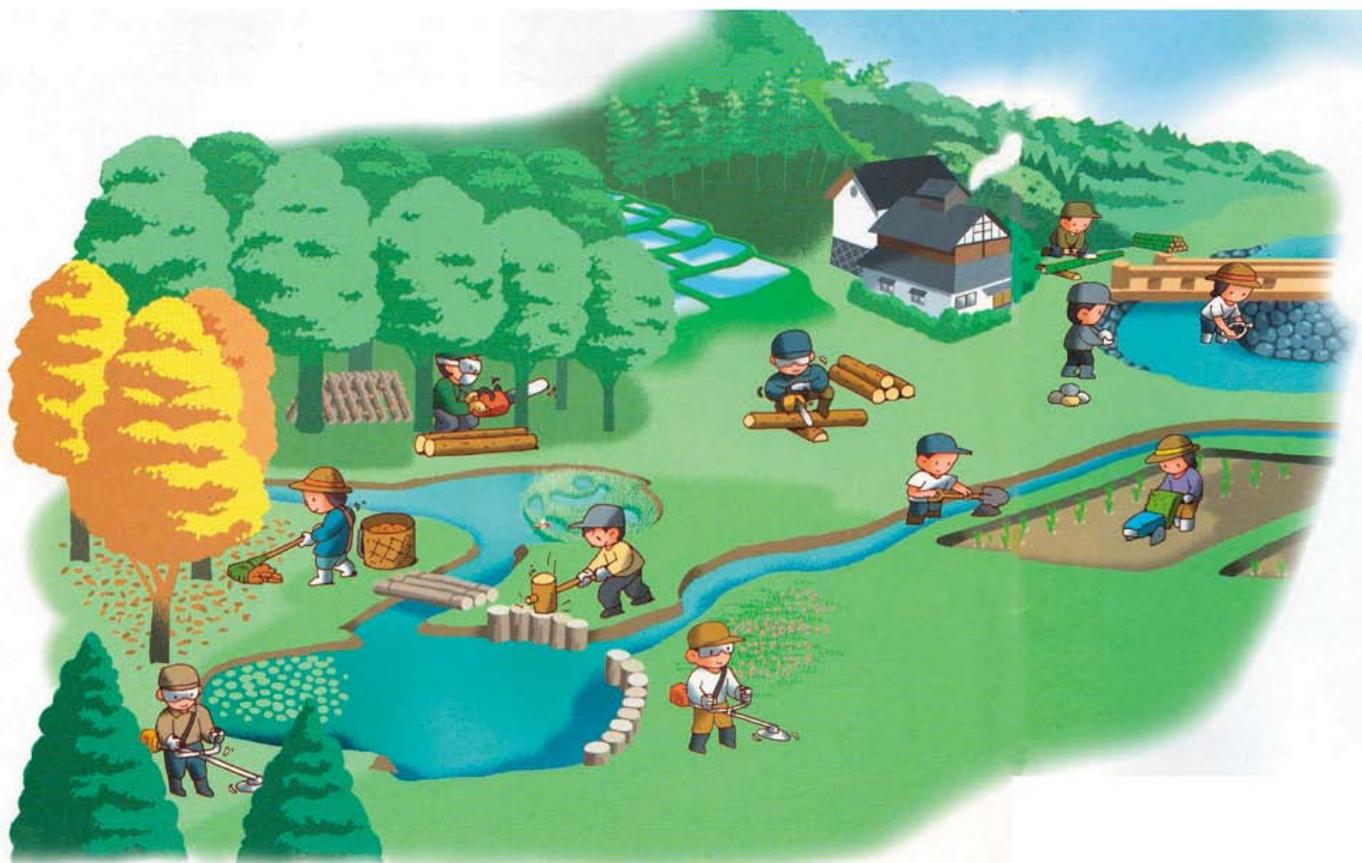


# われらが守る ふくいの里山

里山とは、いったいどんな所のことだろう？



下の絵の中の人たちが、どんなふうに  
自然の役に立っているか、考えてみよう！



地域と連携した里地希少野生生物保全対策事業-人とメダカの元気な里地づくり- (パンフレット 企画・製作 里地ネットワーク 発行 福井県)より転載

## 「里山とは」

農耕などを通じて、人間が自然環境に関わり続けることにより形成・維持されている自然環境を「里山」といいます。

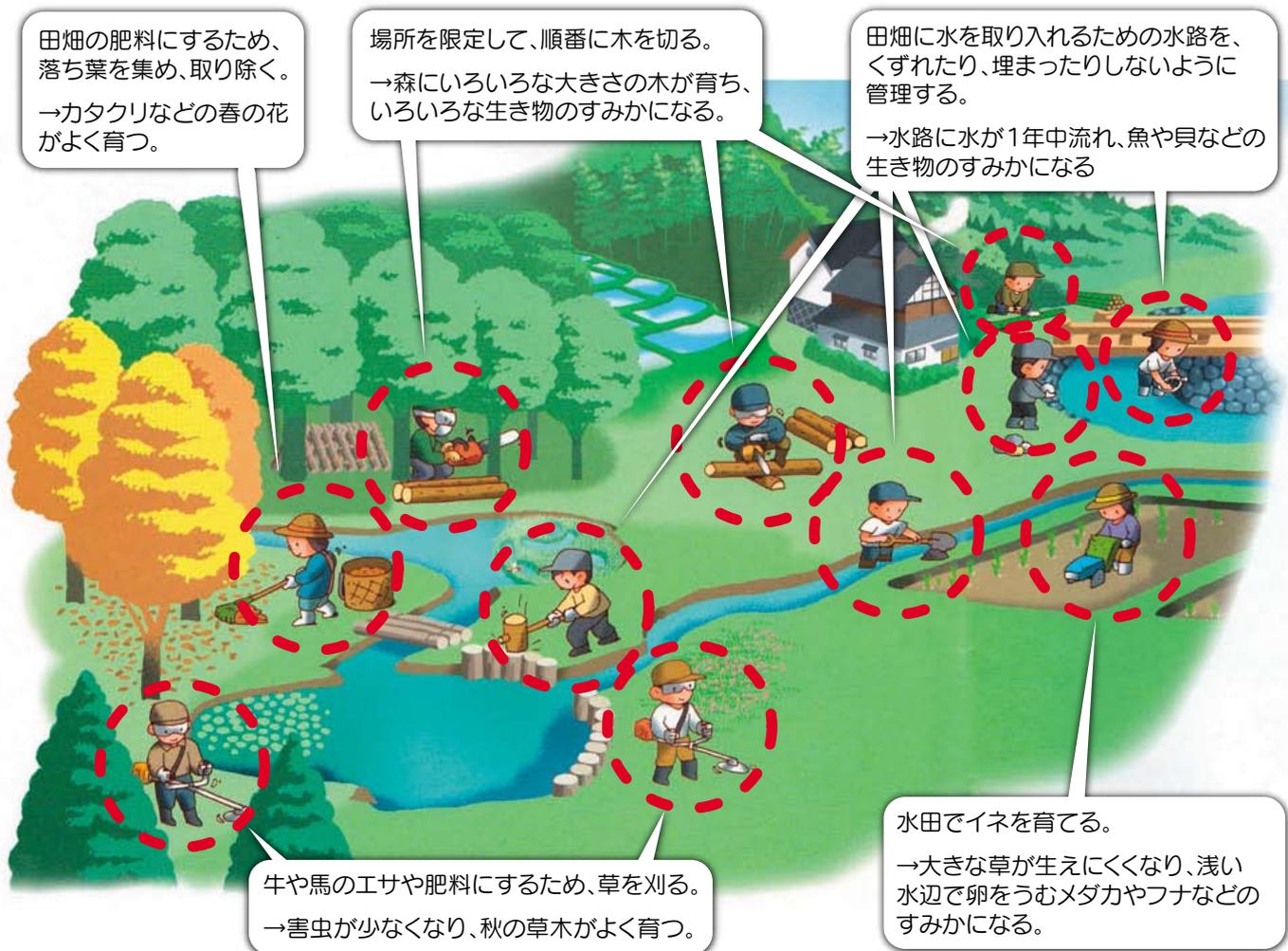


## 「里山を守っていくための視点」

里山を守るためには、5つの視点が重要です。

- (1) 地域の環境が人間の活動をどれくらい受け入れることができるのか、地域における自然の復元力がどれくらいあるのかを考えながら利用する。
- (2) 地域の自然から得られる恩恵を、無駄にすることなく、繰り返し利用する。
- (3) 地域の伝統・文化の価値と重要性を認識する。
- (4) 将来にわたって生態系を守り、自然からの恩恵を受けられるように、さまざまな立場の人が協力して活動する。
- (5) 貧困削減、食糧安全保障、生計維持、地域の活性化など、将来にわたって社会・経済へ貢献する。

パンフレット「SATOYAMA INITIATIVE」(環境省・国連大学高等研究所 2010)参照



# 里山の研究

## 里山における生物多様性

### 【生物多様性とは】

地球上には、非常に多くの種類の生き物があり、お互いに関わり合いながら生きていることをいいます。

都市化、産業化、地方の人口の減少、農業の生産性を高めるための農薬使用などにより、里山の生き物に変化が出ています。豊かな里山には、豊かな生物多様性があることを、身近な所で、様々な角度から調査してみましょう。

### 【調査例】

- 水田には、どんな種類のカエルがいるだろうか
- 川・湖などの水辺には、どんな生き物がくらしているだろうか
- 手入れされた森には、どんな生き物がくらしているだろうか



## 里山における暮らし・文化

人は、里山から採取できる自然のものを、もの作りや建物作りに活かし、日々の暮らしに役立ててきました。また、季節ごとに自然に感謝するお祭など、自然と密接に関わった文化や風習を生み出してきました。人の暮らしや文化の中で、里山と深く関わっているものを見つけてみましょう。

### 【調査例】

- 人は、里山からどんな食べ物を得てきただろうか
- 里山から採取出来るものを使って作られている道具や建物には、どんなものがあるだろうか
- 食べ物を得たり、道具の材料を採取したりする人の活動が、同時に、里山の自然を守ることになることはあるだろうか



## 調査のポイント

- ◆ 野外観察や実験、里山の調査や体験をしてみる。
- ◆ 里山を守る活動をしている人や専門家にインタビューする。
- ◆ 書籍、インターネットを活用する。
- ◆ 一人一人ができることを考え、情報を発信する。



# 里山における生物多様性

その  
1

水田には、カエルを始め、多くの生き物がくらしています。  
水田にくらす生き物の種類や生態を調べてみてください。



シュレーゲル  
アオガエル



イチョウウキゴケ



コナギ(水生)



マルタニシ



ヤゴ



コナギ(陸生)

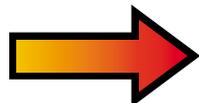
その  
2

豊かな水田が広がっていた里山も、耕作を放棄したことで、  
数年のうちに、大きく変化してしまいました。それとともに、水田で見られた  
カエルなどの生き物も見られなくなっています。

環境が変わったことによる生き物の変化について調べてみてください。



平成9年



耕作を放棄した結果…



平成20年

その  
3

里山の自然を守るため、多くの人たちが保全活動を行っています。  
どのような活動を行い、どのような効果があるのかを考えてみてください。



冬水田んぼ



水路の泥上げ作業

# 調査ポイント

## 1 調査する対象を決める!



- 田んぼの生き物(魚類、カエルなどの両生類、コナギなどの植物 など)
- 家屋周辺の生き物  
(チョウなどの昆虫、ツバメ・スズメなどの鳥類、スギナなどの植物 など)
- 水辺の生き物(魚、水生昆虫、水草 など)
- 海の生き物(岩場の動植物、砂浜の動植物 など)
- 森の生き物(大型哺乳類、樹液に集まる昆虫、カタクリなどの植物 など)
- 外来の生き物(アメリカザリガニなどの動物、オオキンケイギクなどの植物 など)



## 2 調査内容を明確にする!



### A. 動植物の生態を調べる

- 動物の場合、食べ物は何か?
- 生活している場所はどこか?
- 卵の数、実の数は?
- 動物の幼体と成体の違い、植物の発芽の様子?
- 増えているか、減っているか?
- 人との関わりは?

### B. 保全活動について調べる

- 活動場所はどこか?  
(森、水田、畑、川)
- 活動してるのは誰か?
- 守ろうとしている動植物は何か?
- 活動を始めた理由は何か?

## 3 調査方法を決める!

- 野外観察、実験、調査をする。
- 生き物を飼育する。
- 動物園、植物園、自然保護センター、海浜自然センターなど、専門の施設を活用する。
- 専門家にインタビューする。
- 書籍、インターネットで調べる。



# 里山におけるくらし・文化

その  
1

人は日本の里山や里海から、どんな食べ物を得ているか、できるだけ多く探してみてください。



コメ



ブリ・ハマチ

その  
2

人は、昔から、里山の自然から採取したものを日々のくらしに役立ててきました。里山で採取したものを活かして作られている道具や建物を調べてみてください。



越前和紙(越前市)



千古の家(坂井市)

その  
3

人は、自然をそのままにしていたのではなく、さまざまな形で手を加えてきました。そのような活動の中には、結果的に里山の自然を守ることに役立ってきたものもあります。里山保全に役立ってきた人の活動を探してみてください。



間伐作業



アメリカザリガニの駆除



オオキンケイギクの駆除

外来種を駆除する



# 調査ポイント

## 1 調査する対象を決める！

- 里山の恵みについて調べる。
- 地域の文化・風習と里山の関係を調べる。
- 人の活動が自然の保全に役立ってきた事例を調べる。

## 2 調査内容を明確にする！

### A. 里山の恵み

- 地域の伝統料理には、地元の食材が使われているか？
- 地域の伝統工芸には、どんな材料が使われているか？その材料は、どこで採取されているか？
- 昔の生活では、何を燃料に使っていたか？その燃料は、どこで採られていたか？

### B. 文化・風習と里山の関係

- 地域のお祭や風習にはどんな由来があるか？
- その由来は、地域の自然と関係があるか？

### C. 人の活動と自然保全

- 人が人のために行った結果、自然を守るのにも役立ってきた活動には、どんなものがあるか？
- 里山で行われている自然保護活動を調べてみよう。

## 3 調査方法を決める！

- 現場に出かけ取材する。(インタビュー、写真、ビデオなど)
- 伝統料理や伝統工芸、お祭、自然保護活動を体験する。
- 書籍、インターネットで調べる。



わたしたちのまわりには、豊かな里山が広がっています。  
この里山を守っていくには、どうするとよいでしょうか。  
一人一人が課題を見つけて、里山の自由研究をしてみましょう。

### ① 研究の動機

湖の自然を取り戻すためにさまざまな取り組みが行われてきたが、生き物が増えたように感じられず、水はきれいになっているのか疑問を持た。

### ② 研究の目的

多くの生き物がくらせる湖にするためには、どのような活動をすればよいのか調べる。

### ③ 予想

湖の生き物はあまり増えているように見えないことから、水質は改善されておらず、地域住民もきれいな水だとは思っていないのではないかと。

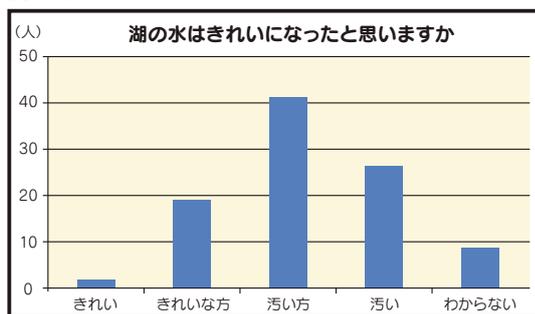
### ④ 研究の方法

《水質調査》COD、透明度の調査を行い、10年前の水質と比較する。

《意識調査》地域住民の湖に対する意識を調べるため、アンケート調査を行う。

### ⑤ 研究の結果

Y1 (福井県あわら市吉崎1丁目)		気温 (°C)	水温 (°C)	COD (mg/l)	透視度 (cm)
7月下旬	今回	28.5	25.5	12.5	31.0
	10年前	27.0	27.0	16.7	27.5
8月上旬	今回	28.5	29.5	8.5	74.5
	10年前	31.0	30.3	10.0	45.3
8月下旬	今回	28.5	28.0	9.5	54.0
	10年前	26.5	27.0	12.5	33.5



※データ出所:平成24年度子どもエコクラブ壁新聞コンクール作品「守ろう!ぼくらの北潟湖~吉崎赤手ガニ調査隊が行く~」より

《水質調査》10年前と比べて、どの時期もCODの値は下がり、水質はよくなっている。同時に、水の透明度も上がり、特に8月上旬は30cm近くも改善されている。

《意識調査》70%をこえる人が、湖の水は汚いと感じている。

### ⑥ 考察

水質改善と地域住民の意識は一致しておらず、水質以外にも重要な点があるのかもしれないことがわかった。

### ⑦ 今後の課題

生き物の種類や数など、水質以外にも調べたい。また、地域の方は、湖の変化に気づいていないと思われる、関心を持ってもらえるよう結果を発信する。

作成者 福井県安全環境部、福井県教育庁

発行 平成25年6月 福井県安全環境部環境政策課  
〒910-8580  
福井県福井市大手3丁目17番1号  
TEL 0776-20-0301

協力 田中 典夫(坂井市立三国中学校校長)  
関岡 裕明(環境アセスメントセンター所長)